

 **YAMAHA**  
*Make Waves*



私と、響き合う。

「ほしい音は、私が表現したいことをかなえてくれる音。」  
ヤマハが新しいCFXに込めた設計思想「ユニボディコンセプト」は、  
すべてが、ピアニストの想いを実現するためにあります。  
ピアノ自身が弾く者の意思を感じているかのように反応し、  
演奏者と楽器が一体となって響き合うことで生まれた音が、  
コンサートホールの空間を満たしていく。  
これこそ、ヤマハが追い求めてきた瞬間に他なりません。  
人の心を動かす音は、ピアノだけが奏でるものではなく、  
ピアニストとともに作りあげていくものだから。

**CFX**  
Yamaha Concert Grand Piano

Yamaha New CFX 誕生。

**CFX UNIBODY CONCEPT**  
—CFX設計思想「ユニボディコンセプト」—

**「隔たりをなくし、込めた力を確かな音に**

ピアニストの想いを込めた打鍵が駆体を駆けめぐり、純然たる音となるために大切なのは、ピアノの中の「隔たり」を可能な限りなくすこと。

全てのパーツが巧みに合わさり一体化したボディは、伝達のエネルギーロスを最小限に抑え、結果としてピアニストがピアノと一体化し、音楽の世界に深く没頭できる。

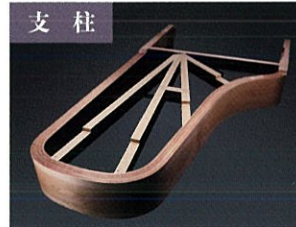
伝えたいと願う音の強弱を、緩急を、音間に潜むドラマまでも、まるでピアニスト自身が謳い奏でるかのごとく、意のままに語ることができる。その思想が、「ユニボディコンセプト」として新たなCFXに体现されています。

**「人の手からピアノの可能性を引き出す**

特器で生産されるピアノは、すべての工程がほぼ手作り。無理な加工は行わず、常に「自然体」を保ち、1台1台のポテンシャルを最大限引き出すためです。精度を高めるために用いる一部の機械作業でも、あえて手作業の余地を残し、最後は職人が細かに仕上げます。



**「ユニボディコンセプト」を実現する本体や鍵盤アクションの仕組み**



曲線支柱には、音質に温かみと深みが出るブナ材とマホガニー材を使用しています。CFXに適したA.R.E.(Acoustic Resonance Enhancement)技術を用い、木材の内部応力を開放させると同時に、含水率を下げることで振動減衰を抑制しています。直支柱は、緻密な機械加工を施した後、手作業による最終調整を行い、曲線支柱の状態に合わせて隙間なく組み込みます。

フェルトにはCFXオリジナルのこだわり抜かれた良質なフェルトを、ハンマーウッドには自然な発音で伸びの良いウォルナットを採用しています。原反の加工方法や、貼り込み型の形状、貼り込み時の温度を刷新しました。これにより、弱打から強打、低音から高音といった音色のグラデーションと豊かな色彩感を実現しました。

詳しくはヤマハ製品サイトで紹介しています。下部QRコードよりご覧ください。

**Interview**

**感度の高い楽器を目指して**

**堀田哲夫** 楽器事業本部FPグループ 主幹

2010年に世に送り出したCFXはおかげさまで多くのピアニストから高く評価されてきました。しかし、一部の著名なピアニストからは一定の評価とともに難しい課題も頂きました。その1つが、楽器の「プレゼンス」、つまり存在感をもっと高めてほしい、という要望でした。その実現のため、今回新たに採用したのが設計思想「ユニボディコンセプト」です。たった10mm、鍵盤を押し下げる事で楽器内に励起される振動エネルギーを最大限有効に

使う事が、楽器のプレゼンスを極限まで高める唯一の手段と考えたのです。また、研究開発や技術開発のチームと連携し、物理モデルによる解析シミュレーションや高度な測定を活用することで、多くの仕様実現に結びつけることが出来ました。様々な専門性を持ったメンバーとの開発では、ときに互いの主張をぶつけ合う場面もありましたが、「これだ!」と思わせるピアノを世に出したいと願う皆の気持ちで、私たちに強く結びつけ、一つの成果に導いてくれました。今回のCFXでは、楽器が一回り大きく豊かに振動するようになり、ピアニストの表現の自由度も格段に向上していると確信しています。



旬のピアニスト情報が満載 Pianist Lounge.

ピアニストラウンジ  検索

<https://jp.yamaha.com/sp/pianist-lounge/>

CFXの詳細はこちらで  
ご覧いただけます

